## 誌上行学講習会

高佐日煌上人

「仏教々学が奥深く整っていることは、此の認識原理の正確さに依つて知ることが出来るであらう。此の十如是観を本にして三観三諦（さかんさんたい）と言う見方をする。それを諸法実相観（しよほうじつそうかん）と言っている。

空観（諸法無我の理念）
仮観（諸行無常の理念）
中観（涅槃寂静の理念）
三観

有相観（現実に対する理念）
無相観（神秘に対する理念）
実相観（実在に対する理念）
三諦

是等は仏教の高等教学であるから今直に理解出来なくても、本講習会の教程を進めて行く内に漸に理解されるであろう」

どうか驚かないでいただきたい。字句の上ではいささか難しいと見られますが、一応今は並べただけでありまして、こういうむづかしいものも学んで行く中にごく自然に解ってくるということなのであります。要は釈迦牟尼仏（お釈迦さま）が此のような認識の方法で人生の実体をつかみとられたということなのです。であるから我々も此の正確な認識によって正しい本当の幸福をつかまへようというのであります。

## 「第三課、人生の究竟目的」

さあいよいよ人生の究竟目的をはっきりさせる段取りに入って参りました。一生懸命学び取っていただきたいと思います。

「一、人生の究竟目的は、全人類に共通せる理想であつて、自然の慾望がそれを指差している斯る先天的欲望は合目的であって、必ず成就せられるのである。その基幹となれるものが四つある」

先ず合目的について説明しておきます。御承知の通り人間の心は人間が作ったものではありません。自分の心は自然に出来ているものの、その心の中から起って来る欲望も又自然の流れなのであります。何か欲というと人が大変悪いことのように考へますが、人間から欲を引くと後に何も残りません。つまり生けるの屍のようになってしまう。生きているだけで何の能もないものが残る。欲とは実に人間を生かし動かす力であります。ですから欲のないというのがよいのでは決してない。欲の使い方を間違うのがいけないのであります。此の意味から欲望というのはみな合目的なのであります。生きている人間のすべてが願うものの欲するものそして間違った使い方でないそのの慾望は必ず成就されるもの、言いかへれば必ず成就される欲を合目的と呼ぶわけなのであります。

以下次号に続く